

「長崎多職種連携・たまごの会」の形成・発展過程に関する一研究
- 社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その1) -

吉田麻衣・潮谷有二・永田康浩
奥村あすか・宮野澄男

A Study on the Formation and Development of the Unskilled
Interprofessional Student Group for Comprehensive Community
Care “Nagasaki Tasyokusyu Renkei・Tamagonokai”
- An Educational Approach to Talented Students for Medical and Social Welfare Services
at Comprehensive Community Care in the Social Security System (Part 1) -

Mai YOSHIDA, Yuji SHIOTANI, Yasuhiro NAGATA,
Asuka OKUMURA, Sumio MIYANO

要 約

本研究では、長崎大学と長崎純心大学の連携事業に両大学の学生が参加し、長崎多職種連携・たまごの会が形成・発展していく過程に関する教育内容や学生の感想文等に関する基礎資料の収集及び整理を通して、学生の学びや気づきを記述的に明らかにすることを目的とした。本研究の結果、本事業の教育プロジェクトによる多職種連携教育の主たる効果と、たまごの会が形成され、学生が主体的に学習する姿勢につながったという副次的な効果を得られたことが大きな成果の一つであると考えられた。加えて、たまごの会のメンバーが、他大学の学生と刺激を与え合う関係形成がなされているという波及効果が生じていることが明らかになった。

キーワード：地域包括ケア、福祉人材養成、多職種連携教育

I . 研究の背景と目的

団塊の世代が75歳以上になる平成37(2025)年を見据え、できる限り住み慣れた地域で、人生の最期まで尊厳をもって自分らしい生活を送ることができる社会の実現に向けて、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現することが

求められている。社会保障制度をとりまく年金、医療、介護、福祉といった様々な分野における法制度の見直しについては、例えば潮谷・永田ら（2017）が厚生労働行政の政策動向に着目し、論述しており、次のように述べている。

厚生労働省が平成27（2015）年9月17日に公表した「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現 - 新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン（いわゆる新福祉ビジョン）」では、地域包括ケアシステムのコンセプトの適用を拡大し、その対象を高齢者に限らず全世代・全対象型の地域包括支援体制として構築していくことに加え、平成28（2016）年7月15日に厚生労働省が開催した第1回「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の資料においては、2035年の保健医療システムの構築に向けて地域包括ケアの深化、地域共生社会の実現が示されており、その是非は別にしても、我が国において地域包括ケアシステム/地域包括支援システムの構築が公共政策として強く求められていることに異論を挟む余地はない状況にあるといえよう（潮谷・永田ら、2017：119-120）。

地域包括ケアシステムの構築については、医療と福祉の連携が求められ、平成24（2012）年2月17日に閣議決定した「社会保障・税一体改革大綱」の中で医療と介護の連携の強化や、在宅医療の推進、多職種協働によるチーム医療の推進が掲げられている。加えて平成26（2014）年6月18日に成立（同年6月25日公布）した「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」の施行によって医療と介護サービスを一体的に提供するための地域包括ケアシステムの体制整備が促進され、医療と福祉との連携の強化が求められている。

このような状況の中、長崎純心大学医療・福祉連携センター（以下、本センターという。）は、平成25（2013）年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」において、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター（以下、長崎大学地域包括ケア教育センターという。）と連携して「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築 人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成」プロジェクト（以下、本プロジェクトという。）を実施するために平成25（2013）年10月1日に設立された教育研究組織である。

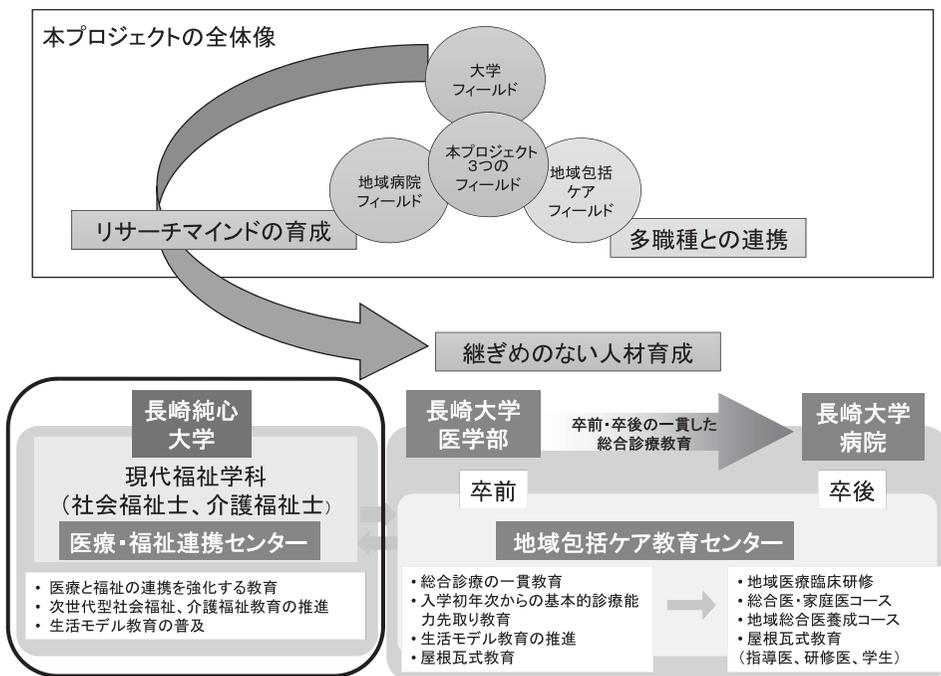
本プロジェクトは地域包括ケアシステムを理解し、将来にわたり実践できる医師の人材育成と、超高齢社会に伴う諸問題を研究する医師を継続的に輩出する仕組みの構築を目指しており、図I-1に示したように本プロジェクトは3つのフィールドによって行われている。その中でも大学フィールドにおいて、継ぎめのない人材育成を目的に長崎純心大学（以下、本学という。）と長崎大学医学部との連携事業（以下、本事業という。）が進められている。なお、本プロジェクトの全体像については長崎大学地域包括ケア教育センター『平成26年度 事業報告書』、『平成27年度 事業報告書』において詳細に報告されているため、それらを参照されたい。

加えて、本センターによる実施体制は図I-2に示した通りであり、本センターを中心に従前

から本学に設置されている地域連携センター、実習指導センター、介護実習室、教務課、入試広報課、総務課の広報担当、メディアオフィス等の学内の事務部局との内部連携を図りつつ、長崎大学と綿密な連携を行うという仕組みを構築している。また、本事業の実施にあたっては、地域包括ケアを支える医療及び福祉における専門職の人材養成に資する教育システムを構築するために様々なプロジェクト（以下、教育プロジェクトという。）を行っており、それらについては、長崎大学医学部医学科や本学人文学部現代福祉学科等の学生たちが参加してきている。そして、その教育プロジェクトの過程に参加した一部の学生たちが「長崎多職種連携・たまごの会（以下、たまごの会という。）」という学生主体の勉強会サークルを平成27（2015）年3月3日に設立し、積極的な活動を行い、その構成員や活動範囲も多岐にわたっている。

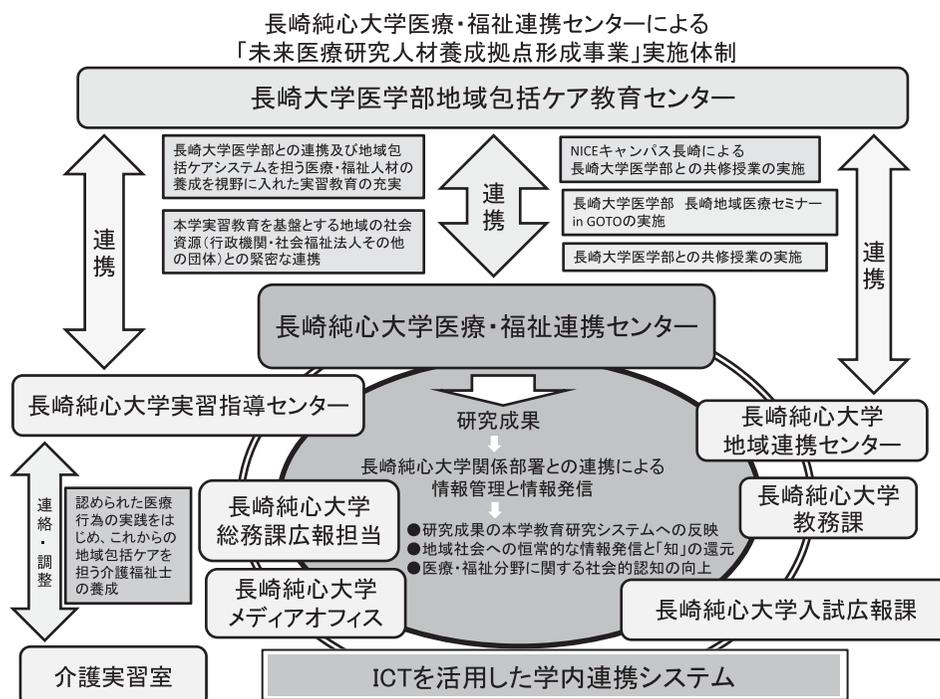
なお、本センターにおける取組や各教育プロジェクトの概要及びプロジェクトに参加した学生の感想文、たまごの会が形成・発展した過程における学生の活動の一端については、長崎純心大学医療・福祉連携センター『平成26年度 事業報告書』、『平成27年度 事業報告書』、本センターのホームページ（<http://www.n-junshin.ac.jp/cmwf/index.html>）や本センター facebook（<https://www.facebook.com/cmwf.n.junshin>）長崎多職種連携・たまごの会 facebook（<https://www.facebook.com/nagasakitamago/>）においても報告されているため、それらも併せて参照されたい。

また、学生たちが自らたまごの会について発表したものとしては、秋田大学主催の第3回全国シンポジウム及び第4回全国シンポジウム、日本プライマリケア連合学会長崎県支部、平成27年



出典：<http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/summary.html>

図 I - 1 本プロジェクトの全体像



度及び平成28年度における長崎大学と本学との合同フォーラム、第6回九州地域医療教育研究会等が存在する。さらに、たまごの会の形成過程については、たまごの会が形成された際のメンバーの一人であった本学人文学部現代福祉学科 中尾よしのが平成27年度卒業論文研究集録（2016：106-107）において実証的に検証している。

そこで本研究では、本事業の教育プロジェクトに両大学の学生が参加し、たまごの会が形成・発展していく過程に関する教育内容や学生の感想文等の基礎資料の収集及び整理を行い、福祉系学生の学びや気づきを記述的に明らかにし、多職種連携教育の一助に資することを目的とした。

II. 方 法

本研究の方法は平成26（2014）年4月9日から平成28（2016）年4月2日の間に、学生が参加した本事業の教育プロジェクトにおける配布資料、音声や動画、写真、教育プロジェクトに参加した学生の感想文や発表資料等の資料収集を行い、教員の対応やその時に学生への刺激となった出来事なども踏まえて、整理していくこととした。

本研究の対象者は、本事業の教育プロジェクトに参加した長崎大学医学部医学科及び本学人文学部現代福祉学科の学生の中でも、たまごの会のメンバー並びにたまごの会の形成に関わった学生とした。なお、感想文については主に、本学の学生を対象としていることをお断りしておく。また、倫理的配慮として、本研究に関わった個人や団体等の匿名性を守るために、自由記述の文

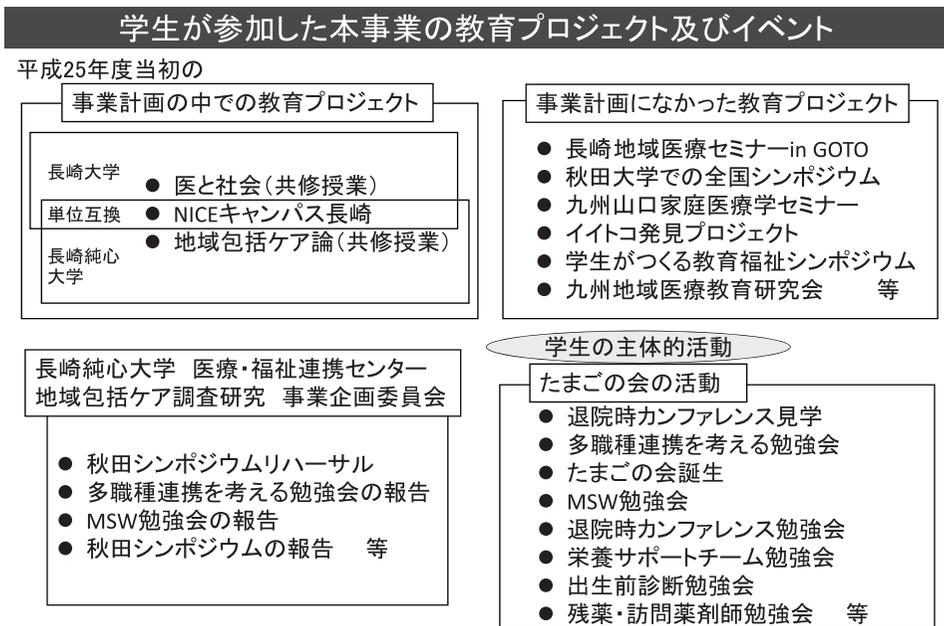
章については、必要に応じてマスキングを行った。

Ⅲ．結 果

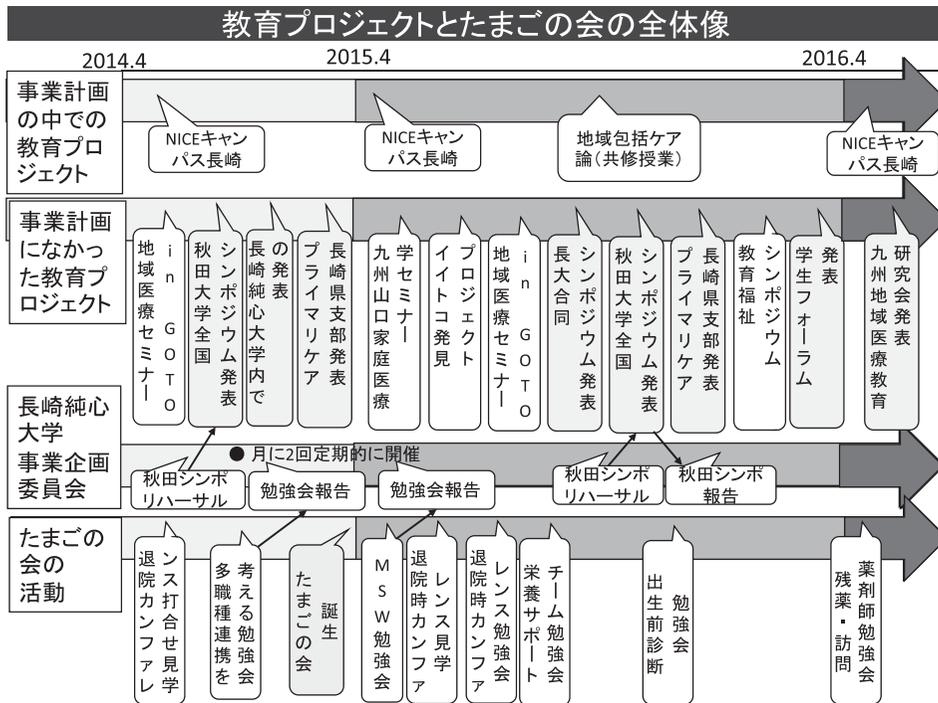
本研究において資料収集と整理を行った結果、図Ⅲ - 1 に示した通り、対象となった学生が参加した本事業の教育プロジェクトは、平成25年度当初の事業計画の中での教育プロジェクトと平成25年度当初の事業計画になかった教育プロジェクトに分けられた。加えて、本センター主催の地域包括ケア調査研究事業企画委員会（以下、企画委員会という。）における学生の活動やたまごの会の活動も存在することが明らかになった。

まず、平成25年度当初の事業計画の中での教育プロジェクトについては、長崎大学で開講されている「医と社会」、長崎大学と本学とで単位互換制度として開講している「NICE キャンパス長崎」、そして本学で開講している「地域包括ケア論」が存在した。そして、平成25年度当初の事業計画になかった教育プロジェクトとしては、長崎地域医療セミナー in GOTO、秋田大学主催の全国シンポジウム、九州山口家庭医療学セミナー、九州地域医療教育研究会等が存在することが明らかになった。また、企画委員会における学生の活動としては、秋田大学主催の全国シンポジウムのリハーサル、たまごの会の勉強会活動報告等があった。さらに、たまごの会の活動としては、退院時カンファレンス見学や多職種連携を考える勉強会等があった。

次に、収集した教育プロジェクト及びイベントを時系列に整理したものを図Ⅲ - 2 に示した。時系列に整理することで、例えば矢印で示している箇所に見られるように事業計画になかった教



図Ⅲ - 1 学生が参加した本事業の教育プロジェクト及びイベント



図Ⅲ - 2 教育プロジェクト及びイベントの全体像

育プロジェクトの2015年秋田大学全国シンポジウムの発表の前後において企画委員会でのリハーサルや全国シンポジウムでの発表に関する報告を行ったり、たまごの会の活動において医療ソーシャルワーカー（MSW）勉強会の後に企画委員会にて勉強会の報告を行ったりと、本事業の教育プロジェクトと企画委員会及びたまごの会の活動とが相互に関係し合っていることが明らかになった。

これらのことをふまえて以下では、時系列で教育プロジェクト及びイベントの概要と学生の感想とを関連させて報告していくこととした。

1. たまごの会形成過程までの教育プロジェクト及びイベント

(1) 長崎純心大学医療福祉連携センターによる調査研究活動

本センターでは調査研究活動の一環として、地域包括支援センターの現状と課題を明らかにするために、全国4,834か所の地域包括支援センターを対象に調査を実施（平成26年2月6日調査票発送）した。回収された1,217件に対してコーディング作業、データ入力、データクリーニングを行い、最終的には1,206件に対し統計的分析を行っている。その作業には、本学現代福祉学科の学生が10名程度関わっていた（図Ⅲ - 3 参照）。

また、学生の感想の一例としては、「今回、全国規模の社会調査の企画段階から調査票作成、データの整理・分析等の作業に参加させていただき、社会調査を実践的に学ぶ機会に恵まれました。

たまごの会形成過程までの教育プロジェクト 及びイベント

長崎純心大学医療・福祉連携センターによる調査研究活動等

全国調査

本センターでは調査研究活動の一環として、地域包括支援センターの現状と課題を明らかにするために、全国4,834か所の地域包括支援センターを対象に調査を実施(平成26年2月6日(木) 調査票発送)。
平成25年度

回収された1,217件に対してコーディング作業、データ入力、データクリーニングを行い、最終的には1,206件に対し統計的分析を行いました。作業には、本学学部生及び大学院生の協力を得ています。



学生の感想

今回、全国規模の社会調査の企画段階から調査票作成、データの整理・分析等の作業に参加させていただき、社会調査を実践的に学ぶ機会に恵まれました。特に、調査票作成段階では、現場の先輩へのプレテストを重ねながら慎重に調査項目を検討することで、調査項目の精度が高まっていくのを実感できました。また、収集されたデータを整理する作業では想像以上に細やかな配慮が必要であったことも学びました。大変な仕事でしたが、データが公表されて全国の地域包括支援センターの現状分析や課題解決の一助になればと思っています。自分たちがお手伝いできたことを誇りに思っています。



平成27年3月卒業
(現代福祉学科)

図Ⅲ - 3 長崎純心大学医療・福祉連携センターによる調査研究活動等

た。特に、調査票作成段階では、現場の先輩へのプレテストを重ねながら慎重に調査項目を検討することで、調査項目の精度が高まっていくのを実感できました。また、収集されたデータを整理する作業では想像以上に細やかな配慮が必要であったことも学びました。大変な仕事でしたが、データが公表されて全国の地域包括支援センターの現状分析や課題解決の一助になればと思っています。自分たちがお手伝いできたことを誇りに思っています。」といったものが存在した。

(2) NICE キャンパス長崎

NICE キャンパス長崎は平成26(2014)年度から毎年、長崎大学と本学が連携し、共修科目が15コマ設定され、実施されている(図Ⅲ - 4 参照)。この授業は、学生時よりキャリアデザインについて他大学、他学部、他学科の学生と共に学びながら、互いをよく理解し尊敬できる専門職、職種を超えて価値観を共有できる人材の育成を目指し、開講された。このNICE キャンパス長崎を受講した学生たちは、医療分野と福祉分野の学生と初めて交わるきっかけとなったと考えられた。

(3) 第2回長崎地域医療セミナー in GOTO

平成26(2014)年8月22日(金)から24日(日)に行われた第2回長崎地域医療セミナー in GOTO(以下、五島セミナーという。)において、それまで医療系学生のみで実施されていた五島セミナーに初めて福祉系学生が参加した(図Ⅲ - 4 参照)。

学生の感想の一例としては、「本セミナーで医学部生や他学科の学生と意見を交換する中で、言葉の捉え方にずれがあることに気づき、そこから、他の様々な違和感がどうして起こっていた

NICEキャンパス長崎

- ①平成26年度NICEキャンパス長崎「地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート」全15回
- ②平成27年度NICEキャンパス長崎「地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート」全15回
- ③平成28年度NICEキャンパス長崎「目指せ！プロフェッショナル」全15回

医療分野と福祉分野の
学生が交わるきっかけ



第2回長崎地域医療セミナー in GOTO

期日：平成26年8月22日(金)～24日(日)

場所：五島市富江町公民館他

参加者：長崎純心大学 参加教職員5人、学生7人

プログラム

- 地域医療実習
- 講義
- ワークショップ



学生感想

- 本セミナーで医学部生や他学科の学生と意見を交換する中で、言葉の捉え方にずれがあることに気づき、そこから、他の様々な違和感がどうして起こっていたのかということについても気づくことができた。例えば、福祉を学ぶ私たちが想定する「地域」は、人間が生活する場所、生活圏域を指しているが、医学部の学生のそれは、離島や僻地を指している。

医療分野と福祉分野の学生がディスカッションする中での言葉の捉え方の違いへの気づき

図Ⅲ - 4 NICE キャンパス長崎及び第2回長崎地域医療セミナー in GOTO の様子

のかということについても気づくことができた。例えば、福祉を学ぶ私たちが想定する「地域」は、人間が生活する場所、生活圏域を指しているが、医学部の学生のそれは、離島や僻地を指している。」というものが、講義やワークショップを通して医療分野と福祉分野の学生とがディスカッションする中で、言葉の捉え方の違いに気づいたことが明らかになった。

(4) 第3回全国シンポジウム - 日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2014 -

平成26(2014)年11月15日(土)に秋田大学主催の第3回全国シンポジウムの学生ポスターセッションにおいて、長崎大学と本学の学生たちは第2回五島セミナーでの気づきを言語化、視覚化し、発表を行った(図Ⅲ - 5 参照)。また、図Ⅲ - 6は、第3回全国シンポジウムにおける学生ポスターセッションの発表資料である。ポスター発表をするために両大学の学生が何度も話し合い、準備をおこなっていた。発表の内容としては、第2回五島セミナーに参加して、医療と福祉の学生がディスカッションする際に伝えたいのに伝わらないという経験に関する気づきを話し合うにつれ、その気づきは「医療と福祉のフレームの違い」だったことを確信したことなどが述べられていた。

なお、第3回全国シンポジウムの発表に伴い、企画委員会においてリハーサルをして、企画委員会の参加者と様々な議論を行ったことで、発表資料がよりよいものへと修正がなされた。企画委員会については本稿の「6. 本センターにおける学生のサポート」において述べることとする。

第3回全国シンポジウムー日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2014ー

日時:平成26年11月15日(土)12:00~18:00

場所:秋田県(秋田キャッスルホテル)

参加者:長崎純心大学 教員4人

発表者:長崎純心大学 学生3人

気づきを言語化、視覚化し、発表

学生ポスターセッション



図Ⅲ - 5 第3回全国シンポジウムの様子

(5) 長崎純心大学教授会 全国シンポジウム報告

平成26(2014)年12月3日(水)に本学の教授会において秋田大学主催の第3回全国シンポジウムで発表した内容を再度発表した(図Ⅲ-7参照)。学生感想の一例としては、「五島での研修から秋田での学会発表、教授会での発表と継続的な場が作られており、今回のアクションプランの実現に繋がっています。」といったものがあり、学びを振り返り、発表するという継続した機会の確保により学生はさらなる学びを得ることができたと考えられた。また、本学内の教職員に対しても、本センターの取り組みや学生の学びを周知する機会となった。

(6) 日本プライマリケア連合学会長崎県支部会第2回総会・学術集会

平成27(2015)年2月14日(土)に長崎大学医学部で行われた、日本プライマリケア連合学会長崎県支部会第2回総会・学術集会においても秋田大学主催の第3回全国シンポジウムで発表したポスターを用いて発表を行い、19本の発表の中から優秀賞の榮譽をいただいた(図Ⅲ-7参照)。当該集会において評価を得たことは、学外において本事業や学生の取り組みが知られはじめ、本事業が全国の医療や福祉系大学の先駆的取り組みになることを学生や本事業関係者が確信する出来事となった。

長崎純心大学教授会 全国シンポジウム報告

期日：平成26年12月3日(水)

場所：長崎純心大学会議室

発表者：長崎大学医学部5人、長崎純心大学現代福祉学科4年3人、3年1人



学生感想

- 五島での研修から秋田での学会発表、教授会での発表と継続的な場が作られており、今回のアクションプランの実現に繋がっています。

日本プライマリケア連合学会長崎県支部会第2回総会・学術集会

期日：平成27年2月14日(土)

場所：長崎大学医学部

発表者：長崎純心大学現代福祉学科1人
長崎大学医学部1人

19本の発表の中から優秀賞の栄誉



図Ⅲ - 7 長崎純心大学教授会報告及び日本プライマリケア連合学会発表の様子

2. たまごの会形成に向けて学生の主体的取組

これまで述べたような教育プロジェクトを学生たちは経験していく中で、医療と福祉の学生が共に学ぶことの必要性を意識し始め、少しずつ自主的に集まり始めた。そこで、たまごの会形成に向けて学生が行った主体的取組の一部を報告する。なお、以下の(1)から(4)及び図Ⅲ - 8、図Ⅲ - 9については、秋田大学主催の第4回全国シンポジウムにおいて学生が発表したポスターを引用し作成していることを付記しておく。

(1) 平成26年12月9日 退院カンファレンス打ち合わせを見学

学生たちは、医師と社会福祉士、特に医療ソーシャルワーカー(以下、MSWという。)が参加する退院時カンファレンスに興味を持ち、その打ち合わせ会議を見学していた。学生たちは退院カンファレンスの打ち合わせに参加して、専門分野の知識のみでは、患者・利用者さんの診療・支援は不十分であると改めて気づいていた(図Ⅲ - 8参照)。

(2) 平成27年1月11日 Kickoff 多職種連携を考える勉強会

退院カンファレンスの打ち合わせを見学した際の気づきや学びを共有するために、Kickoff 多職種連携を考える勉強会が行われ、学生たちは自ら事例を作成し、退院前・後、半年後、1年後と時系列で患者・利用者さんのニーズとその対処法を考えた(図Ⅲ - 8参照)。

学生はニーズを出しあった際に、医学生は「病気を治すこと」、福祉学生は「利用者と周りの環境に視点を当て支援していくこと」に重点をおいていると感じていた。そこで、学生は異なる

たまごの会形成に向けて学生の主体的取組

教育プロジェクトを経験していき、医療と福祉の学生が共に学ぶことの必要性を意識し始めた学生達は自主的に集まり始めた。

平成26年12月9日 退院カンファレンス打ち合わせを見学

医師と社会福祉士、特に医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker)が参加する退院時カンファレンスに興味を持ち、その打ち合わせ会議を見学させて頂いた。専門分野の知識のみでは、患者・利用者さんの診療・支援は不十分と改めて気づく。

見学での気づきや学びを共有するために

平成27年1月11日 Kickoff 多職種連携を考える勉強会

事例を作成し、退院前・後、半年後、1年後と時系列で患者・利用者さんのニーズとその対処法を考えた。

ニーズを出しあった時、医学科生は「病気を治すこと」、福祉学生は「利用者と周りの環境に視点を当て支援していくこと」に重点をおいていると感じた。

⇒異なる専門分野が有するフレームの違いを再認識した。



図Ⅲ - 8 退院カンファレンス見学及び多職種連携を考える勉強会の様子

専門分野が有するフレームの違いを五島セミナーに続き再度認識していた。

(3) 平成27年3月 勉強会の方向性を決めた作戦会議

勉強会の方向性を決めた作戦会議では、参加者で話し合い、以下の3つの点から勉強会をサークル化することを決めた(図Ⅲ - 9)。

- ①勉強会の紹介や周知がしやすく、仲間を増やしやすいういう「社会的承認」
- ②所属する場ができ、卒業しても戻ってきやすいという「基地・ネットワーク化」
- ③顧問の先生方に相談しやすいという「学生が持たない社会資源のフル活用」

(4) 平成27年3月3日 長崎多職種連携・たまごの会 設立

そして、「多職種のたまご同士が生きた知識を教えあいともに育つ場づくり、そして地域包括ケアを引っ張っていく存在になる」ことを目標に掲げ「長崎多職種連携・たまごの会」が平成27(2015)年3月3日に設立された(図Ⅲ - 9参照)。なお、ここで掲げた目標については、たまごの会の学生たちがこれ以降に述べていく教育プロジェクトに参加し、教員から助言を受けたり、たまごの会の活動や、講演会への参加、大学で受ける講義等、日々学びを深めたことで、目標が変更されていった。このことについては本稿の「3.たまごの会形成後、発展過程での教育プロジェクト及びイベント(5)第4回全国シンポジウム - 日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2015 - 」において述べることとする。

平成27年3月 勉強会の方向性を決めた作戦会議

参加者で話し合い、以下の点で勉強会をサークル化することを決めた。

- ①勉強会の紹介や周知がしやすく、仲間を増やしやすいため⇒社会的承認
- ②所属する場ができ、卒業しても戻ってきやすい⇒基地・ネットワーク化
- ③顧問の先生方に相談しやすい⇒学生が持たない社会資源のフル活用



長崎多職種連携・たまごの会 設立

平成27年3月3日 誕生



「多職種のたまご同士が生きた知識を教えあ
いともに育つ場づくり、そして地域包括ケアを
引っ張っていく存在になる」ことを目標に掲げ
「長崎多職種連携・たまごの会」が誕生した。



図Ⅲ - 9 勉強会の方向性を決めた作戦会議及びたまごの会設立の様子

3. たまごの会形成後、発展過程での教育プロジェクト及びイベント

以下では、たまごの会が形成された後の発展過程について一部報告していくこととする。

(1) 第2回九州・山口家庭医療学セミナー

平成27(2015)年6月20日(土)・21日(日)に九州地区国立大学 島原共同研修センターにて行われた九州・山口家庭医療学セミナーに本学学生が参加し、医学生とともに多職種連携について学んだ(図Ⅲ-10参照)。

学生感想の例としては、「自分の専門分野について相手に理解してもらおう際の言葉の選び方は難しく、自分の勉強不足を感じた。医療従事者と対等に仕事をしていくために、これからもっと自分の専門分野の知識を深めていきたいと思った。」「学生のうちから、色々な専門分野の人と話ができるので、将来仕事をしていく上で必ず役に立ってくると思うし、自分の専門性を深めていく上でも、非常に重要な機会となるのは間違いないだろうと感じた。」というものがあつた。

(2) イトコ発見プロジェクト

平成27(2015)年8月5日(水)から11日(火)まで、島根県雲南市大東町上久野かみくの桃源郷で実施されたイトコ発見プロジェクトに参加し、地区散策や病院見学、地域アセスメント、地域住民への発表、住民との交流会が行われた(図Ⅲ-10参照)。なお、イトコ発見プロジェクトは雲南市、雲南市立病院、NPO おっちらボが主催で行われたプロジェクトであり、東京大学の平成27年度サマープログラムとしても認可されていたことを付記しておく。

第2回九州・山口家庭医療学セミナー

期日：平成27年6月20日(土)・21日(日)
場所：九州地区国立大学 島原共同研修センター

概要
・基調講演 ・セッション1・2・3・4
参加者：本センター教員3人
現代福祉学科4年1人
現代福祉学科3年7人



学生感想

- 自分の専門分野について相手に理解してもらおう際の言葉の選び方は難しく、自分の勉強不足を感じた。医療従事者と対等に仕事をしていくために、これからもっと自分の専門分野の知識を深めていきたいと思った。
- 学生のうちから、色々な専門分野の人と話ができるので、将来仕事をしていく上で必ず役に立ってくると思うし、自分の専門性を深めていく上でも、非常に重要な機会となるのは間違いないだろうと感じた。

イトコ発見プロジェクト

期日：平成27年8月5日(水)～11日(火)
場所：島根県雲南市大東町上久野 かみくの桃源郷
参加者：教員2人、現代福祉学科4年生3人、3年生4人

主なプログラム：地区散策・しめ縄作り・病院見学・アセスメント・プラン発表・住民との交流会



学生感想

- フィールドワークをしたことがなかったので、初めてしてみると、地域の人たちと話し続けることも難しく、地域の特徴をつかむことが難しかったです。

図Ⅲ - 10 第2回九州・山口家庭医療学セミナー及びイトコ発見プロジェクトの様子

学生感想の一例としては「フィールドワークをしたことがなかったので、初めてしてみると、地域の人たちと話し続けることも難しく、地域の特徴をつかむことが難しかったです。」という感想が存在した。

(3) 第3回長崎地域医療セミナー in GOTO

平成27(2015)年8月21日(金)から23日(日)に行われた第3回長崎地域医療セミナー in GOTO(以下、第三回五島セミナーという。)に前年度に引き続き参加をした(図Ⅲ - 11参照)。平成27年度からは学生実行委員が立ち上がり、長崎大学と本学の学生たちが企画し、第3回五島セミナーにおけるワークショップ等の運営を行った。学生感想の例としては「今回のセミナーでは授業で修得したことに関しても自分の知識がまだ曖昧で、うまく説明できないところもあり、悔しい思いをしました。」「まずは自分の専門分野について極め、他分野の領域について理解を示していくことで、尊敬できる関係ができたらいと考えました。」「多職種連携をすることにより、結果として利用者の利益につながると思います。利用者のことを考えた支援方法を多職種で考えていくことが大切だと思いました。」「この3日間のセミナーは、自身の視野が広がり、これまでふれることのなかった地域医療についてもっと知りたいという気持ちが強くなりました。」「これからの大学で学びを深めていくにあたって、良い刺激となりましたし、ここで出会った人とのつながりは大切にしていきたいです。」といった感想が存在した。

第3回長崎地域医療セミナー in GOTO

期日:平成27年8月21日(金)~23日(日)
場所:五島市富江町公民館他
参加者:長崎純心大学 教職員5人、学生7人
プログラム

- 地域医療実習
- 講義
- ワークショップ

学生実行委員が立ち上がり、前年度の経験を踏まえプログラムされた



学生感想

- 今回のセミナーでは授業で修得したことにしても自分の知識がまだ曖昧で、うまく説明できないところもあり、悔しい思いをしました。
- まずは自分の専門分野について極め、他分野の領域について理解を示していくことで、尊敬できる関係ができれば良いと考えました。
- 多職種連携をすることにより、結果として利用者の利益につながると思います。利用者のことを考えた支援方法を多職種で考えていくことが大切だと思いました。
- この3日間のセミナーは、自身の視野が広がり、これまでふれることのなかった地域医療についてもっと知りたいという気持ちが強くなりました。
- これからの大学で学びを深めていくにあたって、良い刺激となりましたし、ここで出会った人とのつながりは大切にしていきたいです。

図Ⅲ - 11 第3回長崎地域医療セミナー in GOTOの様子

(4) 平成27年度 地域包括ケア論の開講

本学では平成27(2015)年度に地域包括ケア論を新設し、同年9月28日(水)から12月12日(水)までの間に全15講を開講した。その中で、長崎大学医学部医学科、保健学科と本学人文学部現代福祉学科の共修授業が5講行われた。これらを通じた教育効果を本研究では主たる効果の一つとして位置づけたが、平成27年度に本学で実施した地域包括ケア論及び長崎大学と本学との共修授業に係る実施体制や共修授業実施に至るまでの取組状況、共修授業の成果の一端については奥村・潮谷ら(2016、2017)の研究が、共修授業全体の授業評価に機能的な尺度の開発については潮谷・永田ら(2017)の研究が存在するため、それらを参照されたい。

(5) 第4回全国シンポジウム - 日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2015 -

平成27(2015)年11月7日(土)に秋田大学主催の第4回全国シンポジウムが行われ、そこで、本学と長崎大学の学生たちがたまごの会の活動についてや第3回五島セミナーでの学びについて発表した(図Ⅲ - 12参照)。加えて図Ⅲ - 13は、第4回全国シンポジウムにおける学生ポスターセッション発表資料である。

学生の発表内容としては、たまごの会の活動については、活動を通してたまごの会は地域包括ケアを「引っ張っていく」のではなく、「支える」存在であることに気づき、また、たまごの会の二つの野望として①「学びの成果を教育現場にINPUTすること」、②「たまごの会のような自己組織化したグループが、日本中に浸透し、新たな「たまご」ネットワークが形成されること」

を挙げていた。加えてたまごの会の活動を通して、普段の大学生活ではあまり出会うことのない他大学・他学部の学生同士が交流を深めながら、ともに成長を遂げているということも発表資料に示されており、他大学の学生と刺激を与え合う関係形成がなされているという波及効果が生じていることが明らかになった。

また、五島セミナーでの学びについての発表内容としては、平成26(2014)年度の第2回五島セミナーでの反省を活かして平成27(2015)年度は学生が自ら学生実行委員を発足させ、企画書を作成したことが報告された。学生が行った企画の中で例えば、第3回五島セミナーのワークショップに関しては、多職種連携をテーマに実際の多職種連携場面を想定した「事例」を用いたことで学生たちは、多職種連携を学ぶ上で、「多職種連携の重要性」を再認識しただけでなく、より具体的に「多職種連携をどう実現するか」について考える一歩を踏み出したということの発表がなされていた。

発表した学生感想の例としては、「他大学の学生さんの取り組みについて知り、刺激を受けることで自分自身の意識の向上につながることも実感することができました。」「五島セミナーやたまごの会、そして秋田全国シンポジウムに参加するにあたって多くの出会いがありました。今回ポスターを製作することで、自分が現在参加している『たまごの会』の活動を振り返ったり、今後より多職種連携を可能なものにしていくためにどのような活動をしていくべきかを考えるきっかけになりました。また、長崎大学の医学部の方たちと一緒に協力してポスターを作っていくことで、長崎純心大学の学生のみでの活動では得ることができない刺激を沢山得ることができ

第4回全国シンポジウムー日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2015ー

日時:平成27年11月7日(土)12:30~13:30

場所:秋田キャッスルホテル

発表者:長崎純心大学 学生6人

参加者:長崎純心大学 参加教員4人

発表1 第3回 長崎地域医療セミナー IN GOTO

～定義から方法へ、卵一人ひとりが考えた多職種連携とは?～

発表2 『長崎多職種連携・たまごの会』～たまごたちが動きだした!

医療と福祉のイノベーション from 長崎～



学生感想

- 他大学の学生さんの取り組みについて知り、刺激を受けることで自分自身の意識の向上につながることも実感することができました。
- 五島セミナーやたまごの会、そして秋田全国シンポジウムに参加するにあたって多くの出会いがありました。今回ポスターを製作することで、自分が現在参加している「たまごの会」の活動を振り返ったり、今後より多職種連携を可能なものにしていくためにどのような活動をしていくべきかを考えるきっかけになった。また、長崎大学の医学部の方たちと一緒に協力してポスターを作っていくことで、長崎純心大学の学生のみでの活動では得ることができない刺激を沢山得ることができて、今後の勉強に対するモチベーションが上がった。

図Ⅲ - 12 第4回全国シンポジウムの様子

て、今後の勉強に対するモチベーションが上がりました。」などが存在した。

(6) 「学生がつくる教育福祉シンポジウム」及び「大阪府立大学生との交流ディスカッション」

平成28(2016)年2月13日(土)に実施された「学生がつくる教育福祉シンポジウム」に本学の学生は参加し、翌日「大阪府立大学生との交流ディスカッション」を行った(図Ⅲ-14参照)。

学生感想の例としては、「普段聞く機会がない他大学で福祉を学ぶ学生の考え方や思いを知ることができてとてもいい機会になった。」「他の大学生と話す機会というのは相手を知る機会でもあり、また私たちが何をしているか、出来ているかを再認識できる絶好の機会だと強く感じました。長崎純心大学でも縦の繋がりを強くして、現代福祉学科で学んでいく後輩が成長できる場づくりをしていきたい。」「今後自分がどのように学び、活動していくべきかを考える機会となった。特に今長崎大学医学部の学生と長崎純心大学の学生と一緒に活動している『多職種連携・たまごの会』での活動を今後どうして行くべきかということと、卒業までの残り1年で何をすべきかということを変えて考える機会になった。」というものがあつた。また、その後当該シンポジウムや交流ディスカッションで知り合った大阪府立大学の学生たちとたまごの会は、平成28年9月24日(土)に長崎にて互いの学びや実践を共有し合う「学びあい交流会」を行うという関係性へと発展している。それらについては、大阪府立大学教育福祉学類の学生による facebook(<https://www.facebook.com/sew.kyofuku/>) や本センター facebook 等においても報告しているため、参照されたい。

「学生がつくる教育福祉シンポジウム」

日時:平成28年2月13日(土)13:00~17:00
場所:大阪府立大学I-siteなんば(大阪市)
内容 ディスカッション、分科会
参加者 本センター教員3人
現代福祉学科3年生3人、長崎大学医学科2年1人

大阪府立大学生との交流ディスカッション

日時:平成28年2月14日(日)9:00~10:45
場所:グランフロント大阪
内容 フリートーキング
参加者:現代福祉学科3年生3人、長崎大学医学科2年1人

学生感想

- 普段聞く機会がない他大学で福祉を学ぶ学生の考え方や思いを知ることができてとてもいい機会になった。
- 他の大学生と話す機会というのは相手を知る機会でもあり、また私たちが何をしているか出来ているかを再認識できる絶好の機会だと強く感じました。長崎純心大学でも縦の繋がりを強くして、現代福祉学科で学んでいく後輩が成長できる場づくりをしていきたい。
- 今後自分がどのように学び、活動していくべきかを考える機会となった。特に今長崎大学医学部の学生と長崎純心大学の学生と一緒に活動している「多職種連携・たまごの会」での活動を今後どうして行くべきかということと、卒業までの残り1年で何をすべきかということを変えて考える機会になった。



図Ⅲ-14 学生がつくる教育福祉シンポジウム及び大阪府立大学生との交流ディスカッションの様子

(7) 医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラム

平成28(2016)年3月24日(木)に長崎大学良順会館にて行われた医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラムにて、たまごの会の学生は、これまでの活動や今後のビジョンについて発表した(図Ⅲ-15)。

参加した学生感想の一例としては「今回、参加した学生たちのフォーラムは、これまでの先輩たちの一生懸命な歩みの重さを感じました。また、たまごの会の発足から今までの活動内容、たまごの会に入ったことで得られた学びや心境の変化などを聞かせていただいたことで、一歩踏み出す勇気や行動力、主体性が必要だと勉強させていただきました。私も先輩たちの背中を見つても、今しか学ぶことができない知識を精一杯吸収していきたいと思います。今回いただいた感動と学びを新たな仲間とともに今後の活動に活かしていきます。」ということが述べられていた。

医療と福祉の専門職を目指す
学生たちのフォーラム



日時:平成28年3月24日(木)14:00~16:40
場所:長崎大学良順会館
シンポジウム

- 「長崎多職種連携たまごの会—活動の紹介・報告—」長崎純心大学現代福祉学科3年
- 「長崎多職種連携たまごの会の今後のビジョン—他大学の学生との関わりから見てきたもの—」長崎純心大学現代福祉学科3年
- 「たまごの会設立から現在に至るまで~私たち学生に必要なものとは」長崎大学医学部医学科2年
- 「たまごの会を通して見えたもの・見えるもの」長崎大学医学部医学科3年



- 学生の主体的な活動によって発展してきた
- 今後の取り組みは、地域に向向していくこと

参加学生感想

- 今回、参加した学生たちのフォーラムは、これまでの先輩たちの一生懸命な歩みの重さを感じました。また、たまごの会の発足から今までの活動内容、たまごの会に入ったことで得られた学びや心境の変化などを聞かせていただいたことで、一歩踏み出す勇気や行動力、主体性が必要だと勉強させていただきました。私も先輩たちの背中を見つても、今しか学ぶことができない知識を精一杯吸収していきたいと思います。今回いただいた感動と学びを新たな仲間とともに今後の活動に活かしていきます!(現代福祉学科2年)

図Ⅲ-15 学生たちのフォーラムの様子

(8) 第6回九州地域医療教育研究会

平成28(2016)年4月2日(土)に九州大学医学部において開催された第6回九州地域医療教育研究会において、たまごの会のメンバーが『長崎多職種連携・たまごの会』~医療と福祉のイノベーション from 長崎~』という演題のもと発表を行った(図Ⅲ-16参照)。

学生感想の例としては「今後もこのような機会があれば積極的に参加し、地域包括ケアを支える存在になる『たまごの会』を全国に広めていきたいと思います。」「他大学の学生さんの具体的な取り組みを知ることができたので、参考にしてたまごの会の活動や大学での活動に活かして

いきたいと思います。」「私たちのサークルの発表を聞いて、興味を持ってくださった先生方や学生が個人的に話を聞きにきてくださったり、また、私たちから他大学の勉強会に参加をさせてほしいということをお願いしたりと、お互いのことを知れるととてもいい機会になりました。」とといったものがあり、他大学の先生方や学生と交流、ネットワークの広がりが明らかになった。その後、研究会で知り合った学生たちと互いの主催する勉強会へ参加し合う関係性へと発展している。それらについては、本センター facebook 等で報告している。

第6回九州地域医療教育研究会

日時：平成28年4月2日(土)13:30～18:00

場所：九州大学医学部 百年講堂中ホール1・2

発表者：現代福祉学科4年3人、長崎大学医学部2年2人

演題「『長崎多職種連携・たまごの会』

～医療と福祉のイノベーション from 長崎～」

発表概要

- ① たまごの会発足の経緯
- ② たまごの会の活動
- ③ 今後のビジョン



学生感想

- 今後もこのような機会があれば積極的に参加し、地域包括ケアを支える存在になる「たまごの会」を全国に広めていきたいと思っています。
- 他大学の学生さんの具体的な取り組みを知ることができたので、参考にしてたまごの会の活動や大学での活動に活かしていきたいと思っています。
- 私たちのサークルの発表を聞いて、興味を持ってくださった先生方や学生が個人的に話を聞きにきてくださったり、また、私たちから他大学の勉強会に参加をさせてほしいということをお願いしたりと、お互いのことを知れるととてもいい機会になりました。



ネットワークの広がり



その後、知り合った学生たちとは互いの主催する勉強会へ参加し合う関係性へ発展

図Ⅲ - 16 第6回九州地域医療教育研究会の様子

4. たまごの会について

以下からは、たまごの会の詳細について述べていく。なお、(1)から(3)及び図Ⅲ - 17、図Ⅲ - 18、図Ⅲ - 19については、平成27年度秋田大学主催の第4回全国シンポジウムにおける学生ポスターセッションの発表資料をもとに作成したものであることを付記しておく。

(1) 構成員

たまごの会の構成員については、平成28(2016)年9月末には本学現代福祉学科、長崎大学医学部をはじめ、長崎県立大学看護学科や活水女子大学食生活科など様々な大学、学科の学生が入部し、総勢で30人程度になっていることが明らかになった(図Ⅲ - 17参照)。

なお、たまごの会のサークルはオープンシステムで運営されており、たまごの会の構成員ではないが、学生主催の勉強会に参加している学生や社会人も多数存在していることを付記しておく。

(2) 活動内容

たまごの会の主な活動内容については、月1回の定期ミーティング、学生主催の勉強会、医療系・福祉施設見学である(図Ⅲ-17参照)。定期ミーティングの内容としては、フリーディスカッションや近況報告を行っている。また、たまごの会にはルールが定められており、見学に行った際にはインプットだけでなく、そこでの学びを振り返り、勉強会を開くことでアウトプットするというを自分たちで決めており、学生たちは実行している。アウトプットにより、新たな学びや課題を発見することができ、疑問が残れば、フィードバックという形で、次のテーマにして学びを再度繰り返すというを行っている。

たまごの会について

たまごの会の主な構成メンバー

大学	学部
長崎大学	医学部 医学科
	医学部 保健学科
長崎純心大学	人文学部 現代福祉学科
	人文学部 比較文化学科
活水女子大学	健康生活学部 食生活健康学科

他大学・他学科の学生が入部
現在、約30人

顧問: 長崎大学地域包括ケア教育センター長 永田康浩先生
長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷有二先生

たまごの会の主な活動内容

- 定期ミーティング(月1回)
- 学生主催の勉強会
- 医療系・福祉施設見学

定期ミーティング

アイスブレイク
近況報告TIME
ディスカッションTIME

学生主催の勉強会

★唯一のルール
施設見学をしたら、必ず勉強会を開催するメンバーになる。

サークルに入っていない他大学の学生、社会人も参加可能

※平成27年秋田大学「全国シンポジウム」学生ポスターセッション発表資料より作成

図Ⅲ-17 たまごの会の構成員及び活動内容

(3) 学生主催の勉強会

たまごの会が設立された後の学生主催の勉強会が下記のテーマのもと実施されていた(図Ⅲ-18、図Ⅲ-19参照)。

- ①平成27年4月19日「MSWを知ろう会」
- ②平成27年7月4日「緩和ケアカンファレンス見学共有」
- ③平成28年1月16日「出生前診断を知ってる会?さまざまな生命のあり方について考えよう」
- ④平成28年3月26日「残薬について知ろう!多職種で節薬、残薬をなくそう!」

学生主催の勉強会

「MSWを知ろう会」

日時:平成27年4月19日 9:30～12:00

場所:長大坂本キャンパス

内容 ・アイスブレイク

- ・プレゼン(社会福祉士、医療ソーシャルワーカー(MSW)の説明)
- ・講演
- ・グループディスカッション、発表、フィードバック
- ・事例紹介
- ・グループディスカッション



「緩和ケアカンファレンス見学共有」

日時:平成27年7月4日(土)13:30～15:30

場所:長崎純心大学地域連携センター

参加者:長崎純心大学29人、長崎大学6人

内容

- ・アイスブレイク
- ・たまごの会の緩和ケアカンファレンス見学活動報告
- ・医療ソーシャルワーカーから講演
- ・グループワーク「多職種連携ってなあに」、発表
- ・フィードバック



図Ⅲ - 18 学生主催の勉強会の様子

学生主催の勉強会

「出生前診断を知ってる会?～さまざまな生命のあり方について考えよう～」

日時:平成28年1月16日(土)13:00～15:00

場所:長崎大学医学部ポンペ会館

内容

- ・ミニレクチャー
「出生前診断ってなに」「出生前診断の現状」
- ・講演
「妊娠そして告知～その先にあるもの～」



「残薬について知ろう! 多職種で節薬、残薬をなくそう!」

日時:平成28年3月26日(土)13:00～15:00

場所:長崎大学医学部坂本キャンパス

内容

- ・アイスブレイク
- ・薬剤師について
- ・ディスカッション
- ・ゲストスピーカーを招いて講演



図Ⅲ - 19 学生主催の勉強会の様子

5. 外部からの評価

たまごの会に対する外部からの評価としては、平成27(2015)年10月21日及び平成28(2016)年5月25日の長崎新聞記事への掲載が存在し、外部から一定の評価を得てきていることが明らかになった(図Ⅲ-20参照)。そして、このことは、2(3)において先述したように、サークル設立時にサークル化することの利点としてあげていた「社会的承認」を学生らが主体的に活動を行っていき、さらに学会等でその活動を報告することで社会に知られ、評価されるということによって実現していると考えられた。

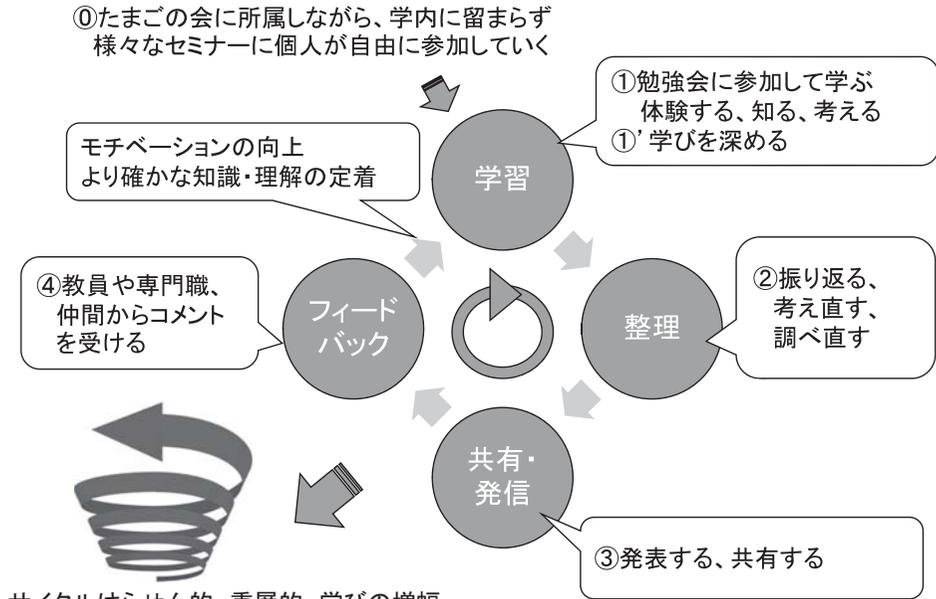


図Ⅲ - 20 たまごの会への外部からの評価

6. 本センターにおける学生のサポート

本センターにおける学生のサポートの一つとして、長崎純心大学医療・福祉連携センター地域包括ケア調査研究事業企画委員会が存在する(図Ⅲ-21参照)。原則として月2回、第2、第4月曜日に開催され、主な内容としては事業報告や共修授業における事例の協議などが行われ、委員会の協議事項の一つとして学生報告が入ることがある。例えば、秋田大学主催の全国シンポジウムの発表に伴い、リハーサルを行い、委員である医療ソーシャルワーカーや地域包括支援センターの社会福祉士といった実際の専門職と共に様々な議論を交わし、学生は学びを深め発表資料をよりよいものへと修正することができた。

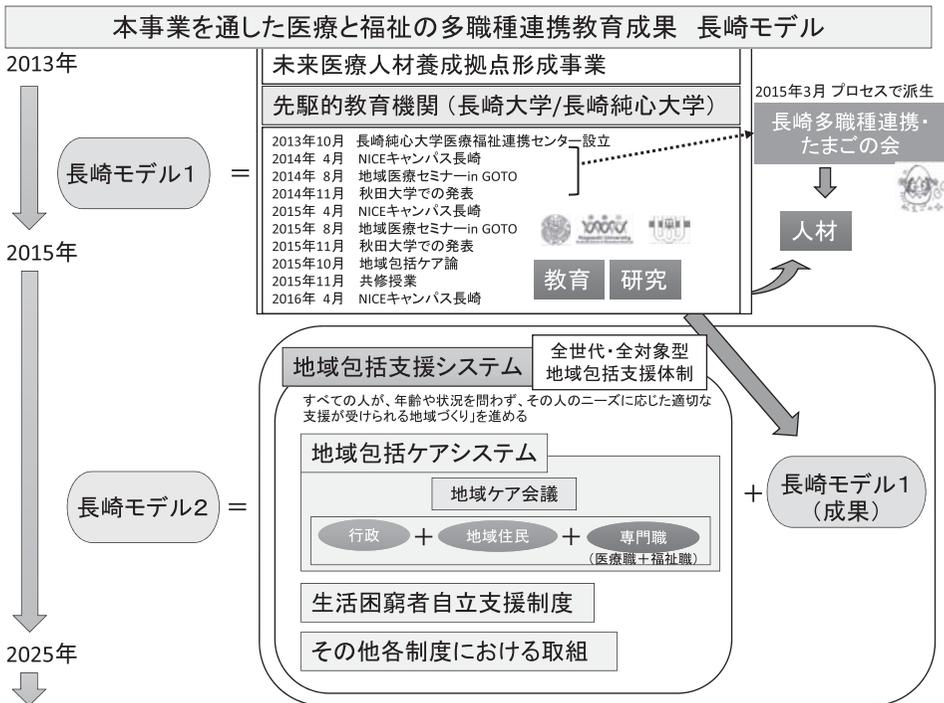
たまごたちの学びのサイクル



サイクルはらせん的、重層的、学びの増幅

※平成28年9月17日「医療と福祉の融合が導く次世代の医療人育成」シンポジウムにおける学生活動報告資料を大幅に加筆修正したものである。

図Ⅲ - 22 学びのサイクル



図Ⅲ - 23 本事業における長崎モデルへの展開構想

なお、本センターでは、長崎大学医学部の連携大学として、鋭意、積極的に教育研究活動に取り組み、全国的な発信を行い、長崎モデルとなるものを引き続き展開していきたいと考えているということを付記しておく。

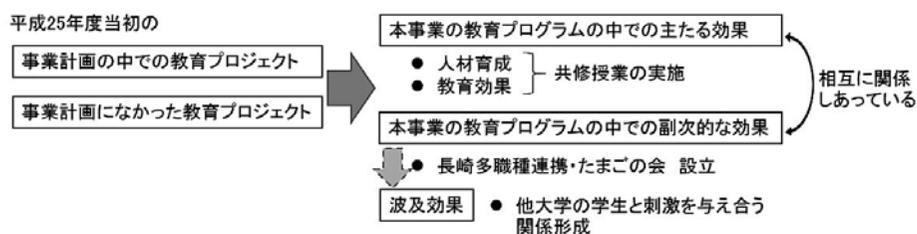
IV. 考 察

本研究において、資料収集と整理の結果、対象となった学生が参加した本事業の教育プロジェクトは、平成25(2013)年度当初の事業計画の中での教育プロジェクトと事業計画になかった教育プロジェクトに分けられた。加えて、長崎純心大学医療・福祉連携センター地域包括ケア調査研究事業企画委員会での活動やたまごの会の活動も存在することが明らかになった。

図IV-1に示したように本事業の成果は、本事業の教育プロジェクトによる多職種連携教育の主たる効果(奥村・潮谷ら 2017、潮谷・永田ら 2017)と、たまごの会が形成され、学生が主体的に学習する姿勢につながったという副次的な効果が得られたことが大きな成果の一つであると考えられた。また、NICE キャンパス長崎、五島セミナー、秋田大学主催の学生ポスター発表という、医療系と福祉系の学生が継続して関わる機会の確保と関連してたまごの会が形成されたと考えられた。そして本事業の副次的効果であるたまごの会と本事業の教育プロジェクトの関係は、現在では共修授業で取り組んだ事例検討をたまごの会の勉強会にて再度勉強したり、本事業の教育プロジェクトに参加した経験をたまごの会のメンバーにフィードバックしたり、教育プロジェクトである五島セミナーにおいてたまごの会のメンバーが中心となって企画実行委員をするなど、本プロジェクトの主たる効果とたまごの会での副次的な効果とが相互に関係し合っていることが確認されている。

加えて、たまごの会のメンバーが、他大学の学生と刺激を与え合う関係形成がなされているという波及効果が生じていることが明らかになった。

今後の研究課題としては、今回収集し、整理した資料等をもとに、学生の学び・感想と教育内容や出来事に関連性について客観的方法を用いて分析、検討し、将来を担う多職種人材養成教育にあたり、どのような教育内容や教育体制が必要であるか考察していくことがあげられる。



図IV-1 本事業における効果

本論文で用いた図表等は、日本社会福祉学会第64回秋季大会で使用したものに加筆・修正をおこなったものであるとともに、本論文は日本社会福祉学会第64回秋季大会にて口頭発表した内容を踏まえて作成したものであることを付記しておく。

謝辞：本研究にご協力いただきました長崎純心大学及び長崎大学のたまごの会の形成、発展に関係した学生の皆様方には心から感謝申し上げます。

また、本プロジェクトにつきまして、学生の教育に協働いただきました長崎大学地域包括ケア教育センターの教職員の皆様、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島・へき地医療学講前田隆浩教授をはじめとする教職員の皆様、秋田大学全国シンポジウムでの発表ポスター作成や企画委員会での学生報告につきましては、長崎純心大学医療・福祉連携センター地域包括ケア調査研究事業企画委員会の委員の皆様からも貴重なご助言をいただきましたことにお礼申し上げます。

本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。

引用文献

- 厚生労働省「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現 - 新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」(平成27(2015)年9月17日)。
(<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/bijon.pdf>)
- 厚生労働省「第1回「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部 資料」(平成28(2016)年7月15日) (<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000130501.html>)
- 長崎大学地域包括ケア教育センター(2014)『平成26年度 事業報告書』(http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/news/h25_jigyohoukokoku.pdf)
- 長崎大学地域包括ケア教育センター(2015)『平成27年度 事業報告書』(http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/news/h27_jigyohoukokoku.pdf)
- 長崎純心大学医療・福祉連携センター(2014)『平成26年度 事業報告書』(http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/201503_annual_report.pdf)
- 長崎純心大学医療・福祉連携センター(2015)『平成27年度 事業報告書』(http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/h27_iryoh-jigyohoukokusyo_resize.pdf)
- 中尾よしの・潮谷有二(2016)「医療と福祉の専門職を目指す学生たちのグループ形成過程に関する一研究 - 『長崎多職種連携・たまごの会』に焦点を当てて」『現代福祉学科卒業研究集録 第19集』, pp.106-107.
- 奥村あすか・潮谷有二・永田康浩 ほか(2016)「地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その2) - 長崎大学医学部と長崎純心大学との共修授業を通して」『日本社会福祉学会 第64回秋期大会』(<http://www.jssw.jp/conf/64/pdf/B20-02.pdf>)
- 奥村あすか・潮谷有二・永田康浩 ほか(2017)「長崎純心大学の『地域包括ケア論』及び長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部現代福祉学科との共修授業に関する一研究 - 社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その2)」『平成28年度 純心人文研究 第23号』, pp.91-114.
- 潮谷有二・永田康浩・奥村あすか ほか(2017)「長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部現代福祉学科との共

吉田・潮谷・永田・奥村・宮野・「長崎多職種連携・たまごの会」の形成・発展過程に関する一研究
- 社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その1)-

修授業に関する授業評価尺度の開発 - 社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その3)」『平成28年度 純心人文研究 第23号』, pp.115-132.

吉田麻衣・潮谷有二・永田康浩 ほか(2016)「地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その1) - 『長崎多職種連携・たまごの会』の形成・発展過程における教育の実際と学びに焦点を当てて」

『日本社会福祉学会 第64回秋期大会』(<http://www.jssw.jp/conf/64/pdf/B20-01.pdf>)

財務省「社会保障・税一体改革大綱について」(平成24年2月17日閣議決定)(http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/syakaihosyou/kakugikettei/240217_kettei.pdf)

(2016年10月30日 受理)